

祇園祭

塚田 實

今年も七月初めに日立京都支店から顧客に配るうちわを二本送ってきた。うちわは柄（もち手）と骨が竹製で、地紙じがみには祇園祭の山鉾、今年は約二百年振りに復活した「鷹山」が描かれていた。

祇園祭は平安時代初期に疫病退散を願った御霊会ごりょうえとして始まった。祭りは七月十七日の前祭と二十四日の後祭があり、七月に入ると山鉾町では祇園囃子の稽古が始まり、町にコンチキチンの音が響きわたる。

二〇〇四年七月十六日仕事を終えて、宵山の京都に向かい、京都支店長と各山鉾町の展示を見て歩いた。浴衣姿の少女たちが縁起物を買っている。歩き疲れたところで「ビールでも飲もうか」と花見小路のうどん屋「権兵衛」で軽く腹はらごなしをする。「もう少し飲もうか」と今度は祇園白川にかかる巽橋近くのバーで、同じ歳の芸妓相手にウイスキーのロックを転がしながら一時を楽しんだ。

翌十七日は土曜日だった。京都支店は四条通に面したビルにあり、目の前にはいつも山鉾巡行の先頭を切る長刀鉾ながなたほこが立っている。九時の巡行開始を前に、支店の仲間たちと缶ビールで乾杯。稚児が刀を振り下ろす「しめ縄切り」で巡行が始まり、山鉾が四条通をゆっくり動き出す。しばらく見て十時には河原町御池にある顧客信用金庫の事務所に移動した。このビルは交差点の南東角にあるが、少し御池通に突き出ているので巡行する山鉾を河原町通も御池通も両方見渡せる絶好の位置にあり、しかも目の前で辻回しをやるので見飽きない。重たい山鉾を青竹に乗せて音頭取りが「ソーレ」「エンラヤラー」と声をかけて三回位で九十度回転する。

十一時過ぎになると、今度は山鉾が各町に帰る新町通に移った。この道は狭くて鉾が揺れると屋根瓦にぶつかりそうになるので、鉾の上に乗った人が足で屋根を押さえるのが面白い。

祇園祭を満喫した二日間だった。

コロナ第九波の到来が懸念されている。うちわには「祇園祭 山鉾巡行 疫をばらい 平安を祈願し復興 伝統を継承し 後世へ」の書が添えてあった。